

全日制課程 3 年・物理基礎 「単元名 物体の運動」

■本時の目標

- 単元のまとめとして、センター試験レベルの問題演習を行うことで、入試を意識させる。
- ICT 機器を用いて問題を解くことで、生徒の学習到達度を把握し、多角的な物理的解釈を身につけさせる。

■タブレットを活用するねらい（一つだけ記載する。）

- 既習の学習内容における学習到達度を確認し、生徒の学習到達度を基にした個別指導の徹底

学習場面の概要	
導入	<ul style="list-style-type: none"> • 前時の復習。
A1	<ul style="list-style-type: none"> • 本時のねらいの説明。
展開 1	<ul style="list-style-type: none"> • 問題 1 について、投票を行う。 • 結果を生徒に提示し、考察させ、考察を基に、グループで話し合う。
B1	<ul style="list-style-type: none"> • 再度投票を行い、学習内容が定着しているか確認する。
C1	<ul style="list-style-type: none"> • (学習到達度の低い生徒には個別指導を行う。)
展開 2	<ul style="list-style-type: none"> • 問題 2 について、投票を行う。 • 結果を生徒に提示し、考察させ、考察を基に、グループで話し合う。
B1	<ul style="list-style-type: none"> • 再度投票を行い、学習内容が定着しているか確認する。
C1	<ul style="list-style-type: none"> • (学習到達度の低い生徒には個別指導を行う。)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 間違いやすいポイントの復習。
A1	<ul style="list-style-type: none"> • 出題頻度の高い問題（分野）の紹介。



■生徒の変容（感想・授業中の発言等）

- ICT 機器を用いることで、積極的に授業に参加できた。
- わからないポイントを的確に指導してくれた。
- グループで議論・考察できるので、他者の意見や考えを聞くことができた。

問題 2

質量 20kg の物体 A と質量 4.0kg の物体 B が、同じ速さで進んできて正面衝突をした。衝突の時、A、B が互いに及ぼし合う力の大きさはどれが正しいか。

